

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2008年第30週
(7月21日～7月27日)

- * 2008年7月30日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症」も掲載しています。

平成20(2008)年7月31日発行

編集・発行

東京都医師会感染症予防検討委員会
東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2008年30週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				年累計	全国(診断週)	
		27週	28週	29週	30週		30週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							1
	結核	83	82	66	50	2335	231	14622
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *							
	鳥インフルエンザ (H5N1) **							
三類	コレラ					3	1	26
	細菌性赤痢	3	5	3	1	37	14	165
	腸管出血性大腸菌感染症	16	14	13	7	104	117	1533
	腸チフス					6	2	30
	パラチフス		1			5	1	20
四類	E型肝炎					5		29
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎		1			18	5	106
	エキノкокクス症							7
	黄熱							
	オウム病							5
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサスル森林病							
	Q熱					1		2
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							1
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病					5		119
	デング熱		4	1		14	1	36
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱							24
	日本脳炎							
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							2
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							
マラリア		1	1	1	12	2	25	
野兔病							4	
ライム病							3	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症	1	1	1	1	41	7	473	
レプトスピラ症							1	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		27週	28週	29週	30週	年累計	30週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	5	1	7	3	106	10	483
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)		4	3	1	23		128
	急性脳炎 ***					6	1	109
	クリプトスポリジウム症					2		3
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1			11		91
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1		15		72
	後天性免疫不全症候群	12	8	16	10	318	8	830
	ジアルジア症	1		2		16		45
	髄膜炎菌性髄膜炎					2		10
	先天性風しん症候群							
	梅毒	3	5	3	4	114	5	466
	破傷風			1		3	3	61
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1	1	10		48
	風しん	1	1	2		31		247
麻しん	20	17	17	13	1110	53	10442	
2008/7/30集計								

* 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

** 2008年5月12日から指定された。

*** ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 50件 肺結核33件、その他17件で、推定感染地は国内49件、国内/韓国1件。年齢は5歳未満2件、20歳代2件、30歳代10件、40歳代10件、50歳代7件、60歳代7件、70歳代7件、80歳代5件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 1件 ソンネで、推定感染地はインドネシア、推定感染経路は飲食物による経口感染であった。

腸管出血性大腸菌感染症 7件 有症状者4件、無症状病原体保有者3件、血清型はO111(VT1) 3件、O157(VT1VT2) 2件、O157(VT2) 1件、O157(毒素型不明) 1件、年齢は10歳未満2件、10歳代2件、20歳代1件、30歳代1件、70歳代1件であった。O111(VT1)の2件は同居家族の発症であった。

〈四類感染症〉

マラリア 1件 熱帯熱マラリアで、推定感染地はシエラレオネであった。

レジオネラ症 1件 肺炎型で、年齢は70歳代。推定感染地は都内、感染経路は不明であった。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 3件 腸管アメーバ症2件、腸管及び腸管外アメーバ症1件で、推定感染地はすべて国内、推定感染経路は性的接触2件(同性間1件、異性間1件)、飲食物による経口感染/性的接触1件であった。

ウイルス性肝炎 1件 C型で、感染経路は不明であった。

後天性免疫不全症候群 10件 無症候キャリア8件、その他2件で、推定感染地は国内9件、不明1件、推定感染経路は同性間性的接触8件、静注薬物使用1件、不明1件であった。

梅毒 4件 早期顕症梅毒Ⅱ期1件、無症候梅毒3件で、推定感染地はすべて性的接触3件(同性間1件、異性間2件)、不明1件。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件 入れ替えたペースメーカーのパーツから検出された。耐性遺伝子型は不明。

麻しん 13件 麻しん(検査診断例)8件、麻しん(臨床診断例)3件、修飾麻しん(検査診断例)2件で、年齢は5歳未満4件、10歳代1件、20歳代5件、30歳代3件であった。麻しん含有ワクチン接種歴は無し8件、1回2件、不明3件であった。

定点把握対象疾患 報告数 2008年30週

定点種別	対象疾患	2008年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		27週	28週	29週	30週 (定点当たり)			
小児科	RSウイルス感染症	0	1	2	1	0.01	147	150
	咽頭結膜熱	121	143	152	121	0.82		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	385	270	199	126	0.86		
	感染性胃腸炎	867	739	581	505	3.44		
	水痘	194	170	150	99	0.67		
	手足口病	188	254	300	255	1.73		
	伝染性紅斑	37	30	39	13	0.09		
	突発性発しん	106	122	93	89	0.61		
	百日咳	6	11	10	3	0.02		
	ヘルパンギーナ	460	803	1,031	642	4.37		
	流行性耳下腺炎	100	147	87	119	0.81		
	不明発しん症 (注1)	39	24	28	37	0.25		
	MCLS(川崎病) (注1)	1	2	2	1	0.01		
インフルエンザ	インフルエンザ (注2)	7	5	6	4	0.01	285	290
眼科	急性出血性結膜炎	1	4	2	2	0.05	38	39
	流行性角結膜炎	25	20	24	19	0.50		
基幹	細菌性髄膜炎 (注3)	0	2	0	0	0.00	24	24
	無菌性髄膜炎	0	1	2	1	0.04		
	マイコプラズマ肺炎	3	2	3	3	0.13		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	1	0	0.00		
2008/7/30集計								

(注1) 不明発しん症、MCLS(川崎病) は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

風しん、麻疹、成人麻疹は2008年第1週より全数把握対象疾患に変更。

(定点把握対象疾患のコメント)

- ・咽頭結膜熱の定点当たり報告数は減少した。しかし依然高いレベルにあり、引き続き注意が必要である。
- ・手足口病の定点当たり報告数は微減した。しかし依然高いレベルにあり、引き続き注意が必要である。
- ・百日咳の定点当たり報告数は減少した。患者実数は3人で、うち2人が20歳以上であった。
- ・ヘルパンギーナの定点当たり報告数は減少した。しかし依然高いレベルにあり、引き続き注意が必要である。

(定点医療機関からのコメント)

今週はありません。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2008年30週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月				4	1	2		8		3
～11か月	1	2	1	47	6	5		49		62
1歳		21	4	70	19	53	1	28		180
2歳		14	8	54	23	54	1	3		120
3歳		24	18	50	15	37			1	87
4歳		20	16	39	9	37	2			73
5歳		12	18	39	9	28	4			54
6歳		10	13	23	6	12	1	1		28
7歳		5	9	19	2	5				11
8歳		4	10	14	3	9	2			9
9歳		4	7	13	1	2	2			4
10～14歳		2	12	38	1	5				5
15～19歳			1	12	1					
20～29歳		3	9	83	3	6			2	6
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	1	121	126	505	99	255	13	89	3	642
先週比	-1	-31	-73	-76	-51	-45	-26	-4	-7	-389

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月		3				
～11か月	3	13				
1歳	8	10				
2歳	13	4				
3歳	14	4			1	
4歳	17	2	1			
5歳	25					
6歳	17					
7歳	7					
8歳	6	1				1
9歳	1					
10～14歳	5					1
15～19歳	1					1
20～29歳	2					4
30～39歳				2		9
40～49歳				1		1
50～59歳						1
60～69歳					1	
70～79歳				1		1
80歳以上						
合計	119	37	1	4	2	19
先週比	32	9	-1	-2		-5

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2008年30週

	風しん	麻しん
0歳		2
1歳		1
2歳		
3歳		1
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳		1
20～29歳		5
30～39歳		3
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計		13

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2008年30週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田					1	1			1	3
中央区				2		2		1		2
みなと		2	7	40	14	8	1	1		23
新宿区		4	1	8	1	6		1		21
文京		2	1	2	5	7				11
台東			1	23		1	1	1		12
墨田区		1	3	4	2	11		4		10
江東区		1	2	35	2	9		2		35
品川区			3	28	1	15	2	5		23
目黒区		1		2		7		1		7
大田区		13	10	28	5	19	1	4	1	28
世田谷		6	2	29	4	13		5		32
渋谷区		1		20	3	2		2		1
中野区			4	38	5	14		2		13
杉並		21	4	24	7	6		4		7
池袋		3		10	1	6			1	10
北区		1	1	6	5	10	1	3		39
荒川区		2	2	10	1	5				14
板橋区		2	2	6	2	2		4		6
練馬区		3	4	7	1	16		2		27
足立		5	4	16	2	2		1		21
葛飾区		1	6	6	3	7		6		25
江戸川	1	14	5	12	2	6	1	3		54
八王子市		11	17	26	11	28	2	6		23
西多摩		7	2	6	3	5		4		40
南多摩		1	4	15	1	11				17
町田		3	19	27	9	14	2	5		34
多摩立川		6		26	3					17
多摩府中		3	5	10	2	6		13		31
多摩小平		7	16	39	3	16	2	9		53
島しょ			1							3
東京都合計	1	121	126	505	99	255	13	89	3	642

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2008年30週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田			1			
中央区	1				1	1
みなと	2	1				
新宿区		1				2
文京	4					2
台東	3					
墨田区	1					
江東区	3					2
品川区		2				
目黒区						
大田区	21					
世田谷	8	4		1		
渋谷区	6					
中野区	9					1
杉並	9					1
池袋	1					
北区		1				
荒川区	22	4				1
板橋区	2					5
練馬区	3					
足立	11	1			1	
葛飾区	2					
江戸川						
八王子市	5	21				2
西多摩	3					
南多摩						
町田	1	1		3		
多摩立川						
多摩府中	2	1				1
多摩小平						1
島しょ						

東京都合計	119	37	1	4	2	19
-------	-----	----	---	---	---	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区		
文京		1
台東		
墨田区		
江東区		1
品川区		3
目黒区		
大田区		
世田谷		
渋谷区		
中野区		1
杉並		1
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		2
練馬区		1
足立		
葛飾区		
江戸川		
八王子市		
西多摩		
南多摩		1
町田		
多摩立川		
多摩府中		2
多摩小平		
島しょ		

東京都合計		13
-------	--	----

定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2008年30週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田					0.33	0.33			0.33	1.00
中央区				1.00		1.00		0.50		1.00
みなと		0.33	1.17	6.67	2.33	1.33	0.17	0.17		3.83
新宿区		0.67	0.17	1.33	0.17	1.00		0.17		3.50
文京		0.67	0.33	0.67	1.67	2.33				3.67
台東			0.33	7.67		0.33	0.33	0.33		4.00
墨田区		0.33	1.00	1.33	0.67	3.67		1.33		3.33
江東区		0.25	0.50	8.75	0.50	2.25		0.50		8.75
品川区			0.50	4.67	0.17	2.50	0.33	0.83		3.83
目黒区		0.33		0.67		2.33		0.33		2.33
大田区		1.44	1.11	3.11	0.56	2.11	0.11	0.44	0.11	3.11
世田谷		0.75	0.25	3.63	0.50	1.63		0.63		4.00
渋谷区		0.25		5.00	0.75	0.50		0.50		0.25
中野区			0.67	6.33	0.83	2.33		0.33		2.17
杉並		3.50	0.67	4.00	1.17	1.00		0.67		1.17
池袋		0.60		2.00	0.20	1.20			0.20	2.00
北区		0.25	0.25	1.50	1.25	2.50	0.25	0.75		9.75
荒川区		1.00	1.00	5.00	0.50	2.50				7.00
板橋区		0.33	0.33	1.00	0.33	0.33		0.67		1.00
練馬区		0.60	0.80	1.40	0.20	3.20		0.40		5.40
足立		1.00	0.80	3.20	0.40	0.40		0.20		4.20
葛飾区		0.25	1.50	1.50	0.75	1.75		1.50		6.25
江戸川	0.20	2.80	1.00	2.40	0.40	1.20	0.20	0.60		10.80
八王子市		2.75	4.25	6.50	2.75	7.00	0.50	1.50		5.75
西多摩										
南多摩		0.33	1.33	5.00	0.33	3.67				5.67
町田		0.75	4.75	6.75	2.25	3.50	0.50	1.25		8.50
多摩立川		1.00		4.33	0.50					2.83
多摩府中		0.30	0.50	1.00	0.20	0.60		1.30		3.10
多摩小平		1.17	2.67	6.50	0.50	2.67	0.33	1.50		8.83
島しょ			1.00							3.00

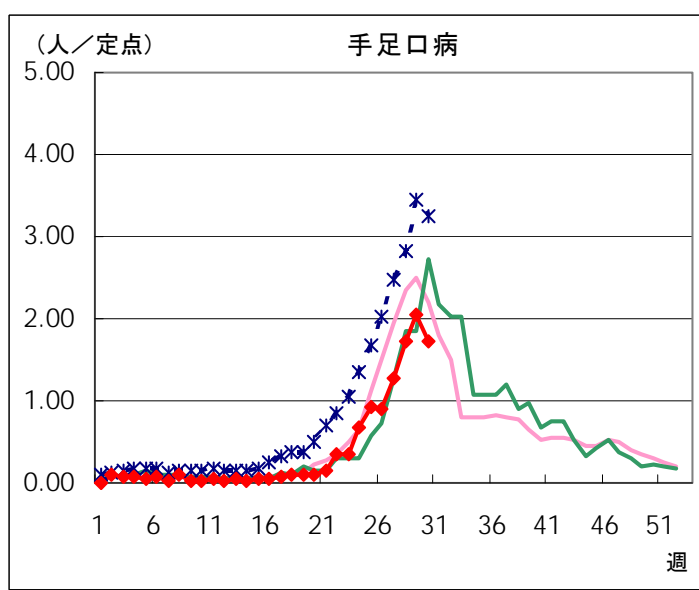
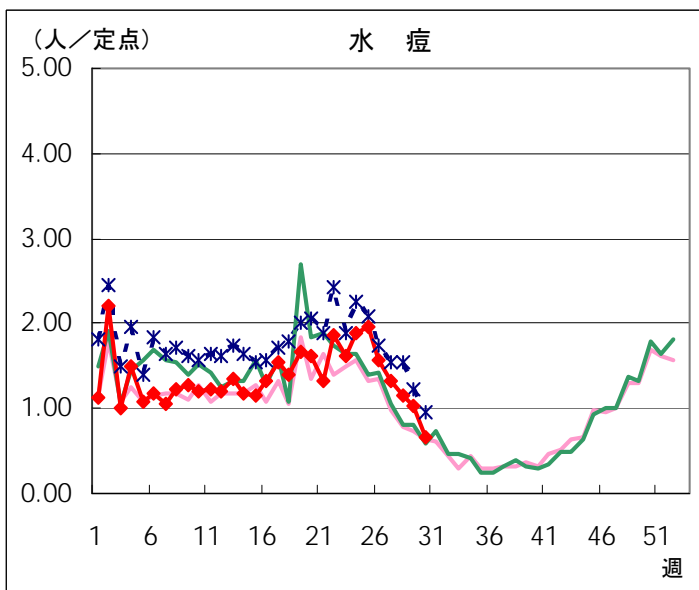
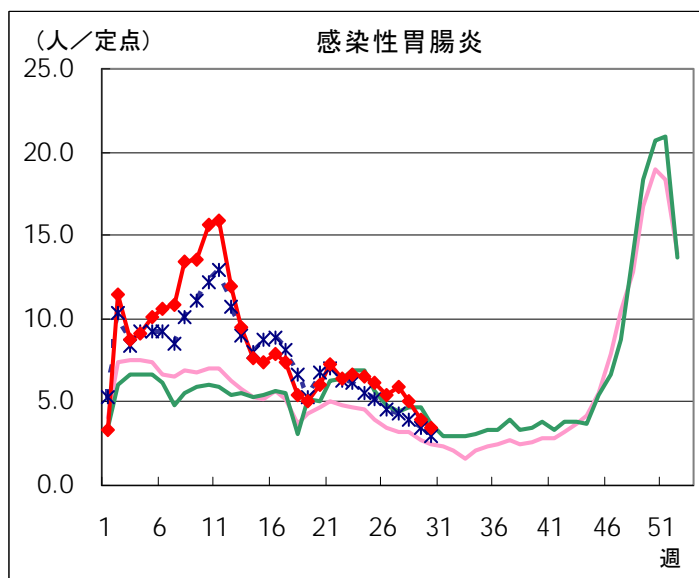
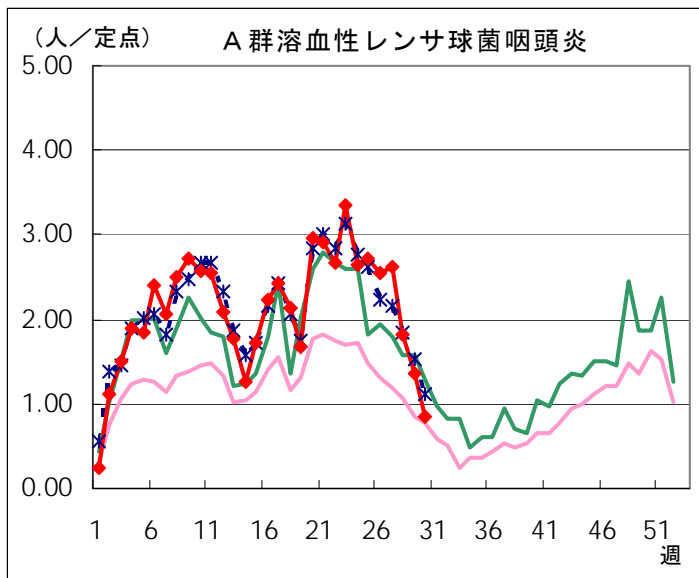
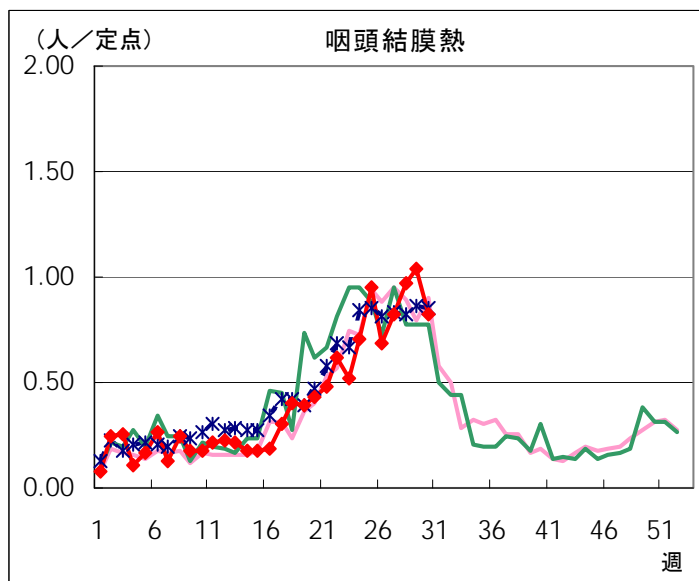
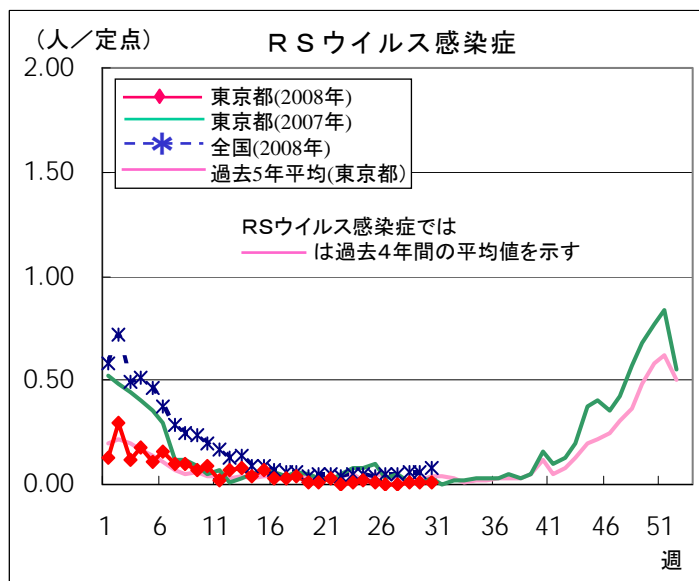
東京都	0.01	0.82	0.86	3.44	0.67	1.73	0.09	0.61	0.02	4.37
-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

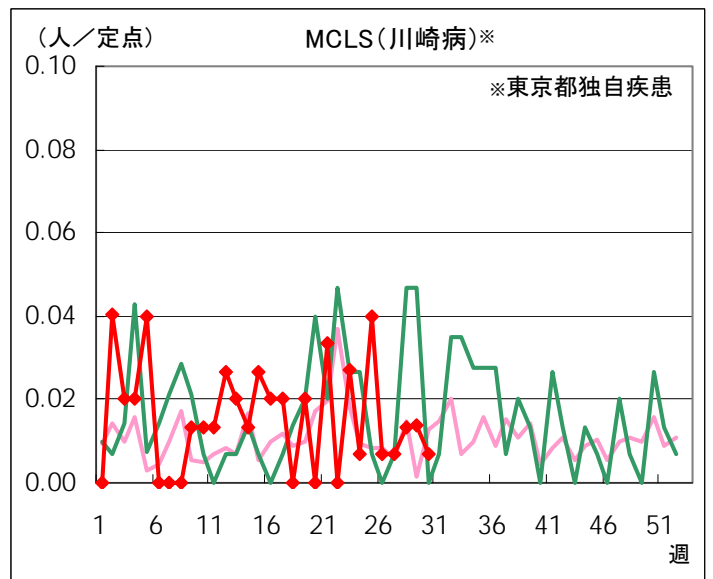
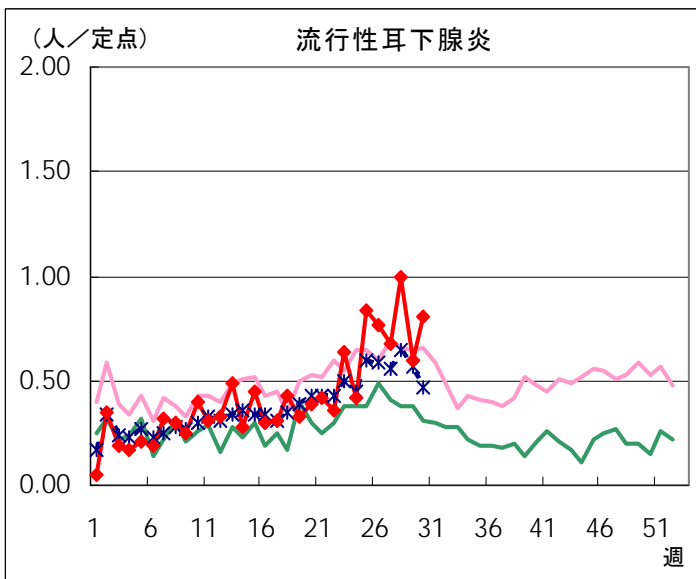
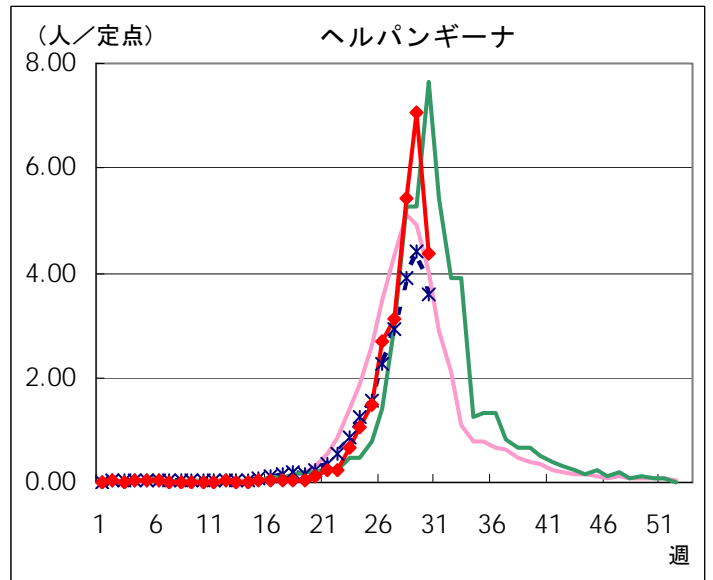
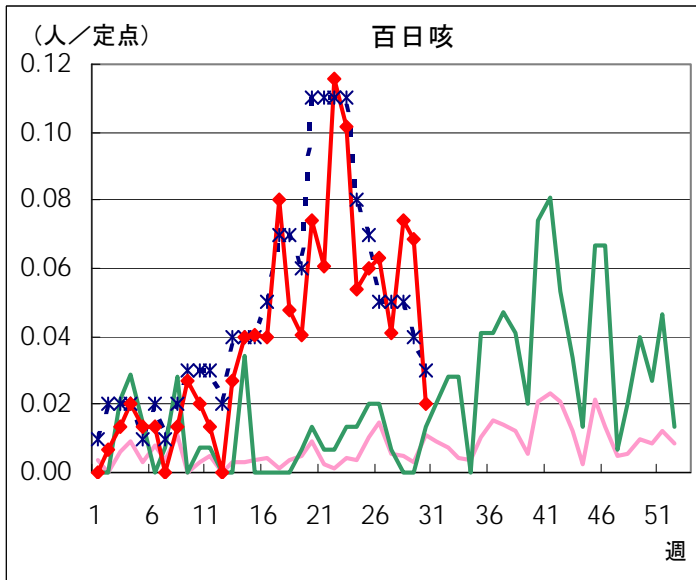
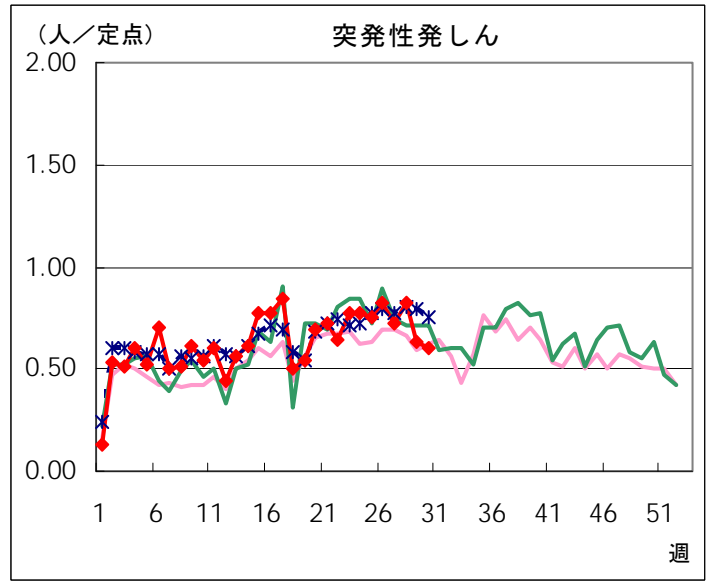
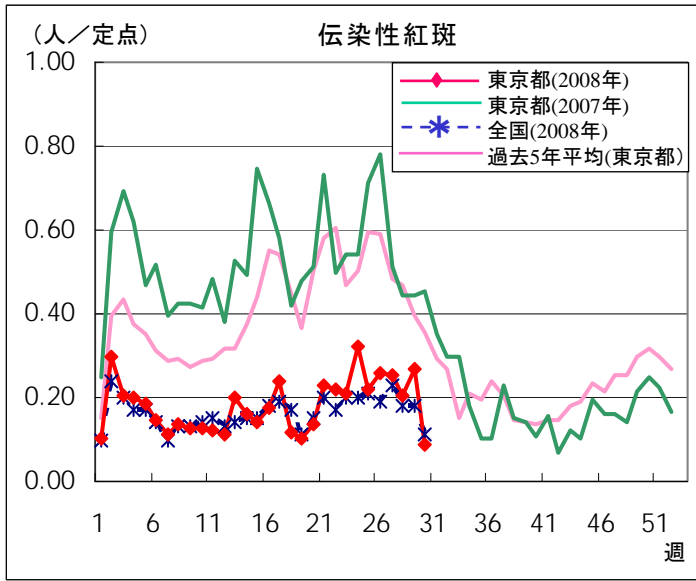
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田			0.33			
中央区	0.50				1.00	1.00
みなと	0.33	0.17				
新宿区		0.17				1.00
文京	1.33					2.00
台東	1.00					
墨田区	0.33					
江東区	0.75					2.00
品川区		0.33				
目黒区						
大田区	2.33					
世田谷	1.00	0.50		0.07		
渋谷区	1.50					
中野区	1.50					1.00
杉並	1.50					1.00
池袋	0.20					
北区		0.25				
荒川区	11.00	2.00				1.00
板橋区	0.33					2.50
練馬区	0.60					
足立	2.20	0.20			0.50	
葛飾区	0.50					
江戸川						
八王子市	1.25	5.25				1.00
西多摩						
南多摩						
町田	0.25	0.25		0.33		
多摩立川						
多摩府中	0.20	0.10				0.50
多摩小平						0.50
島しょ						

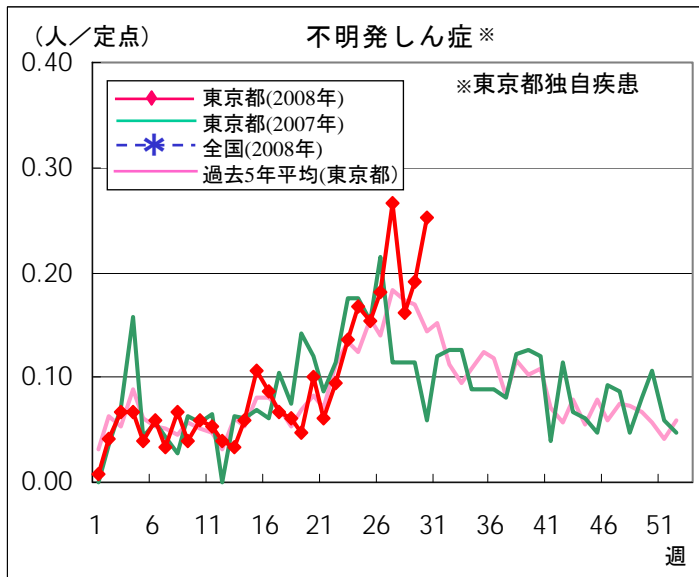
東京都	0.81	0.25	0.01	0.01	0.05	0.50
-----	------	------	------	------	------	------

定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2008年30週現在

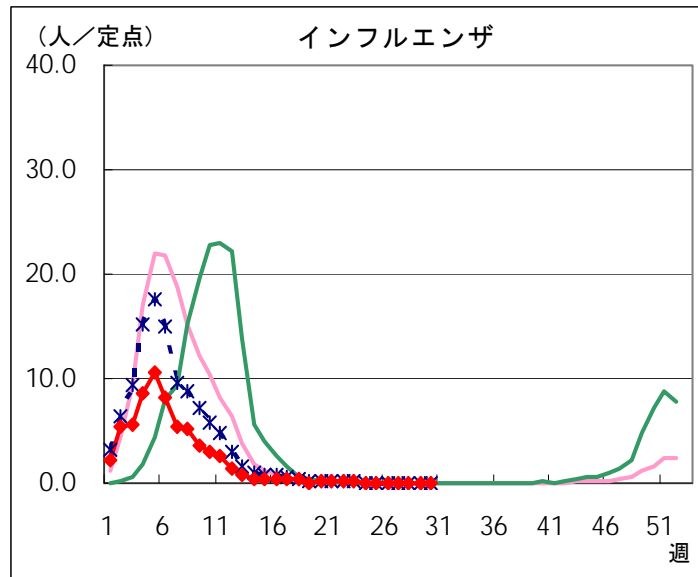
◆ 小児科定点



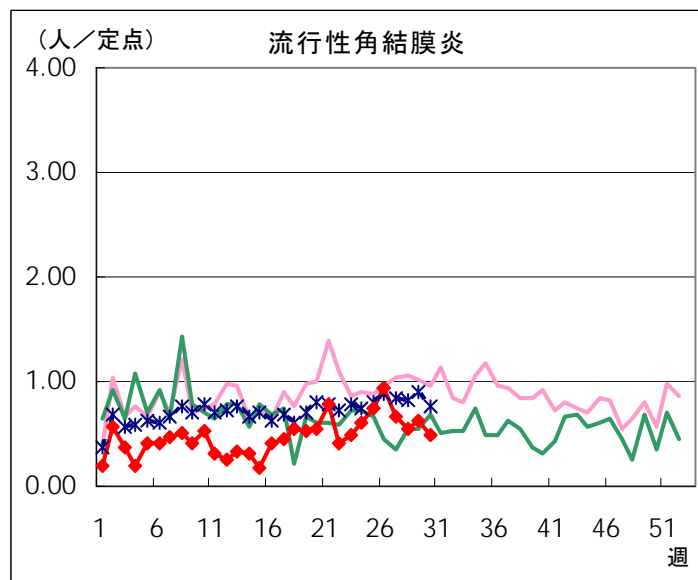
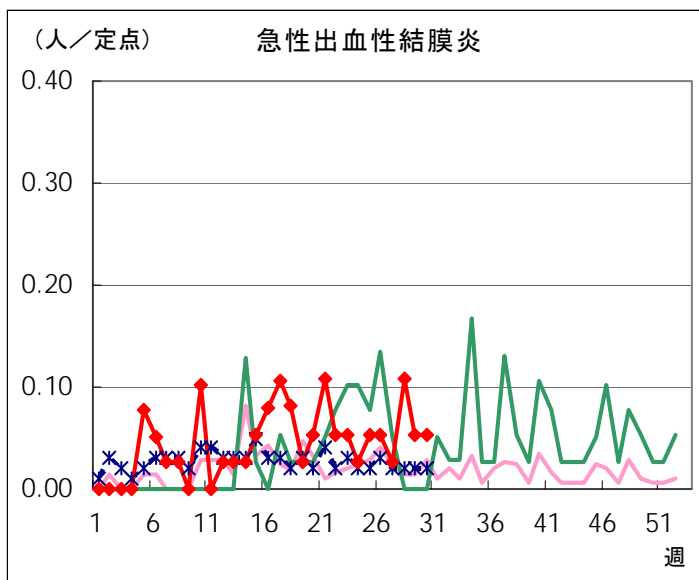




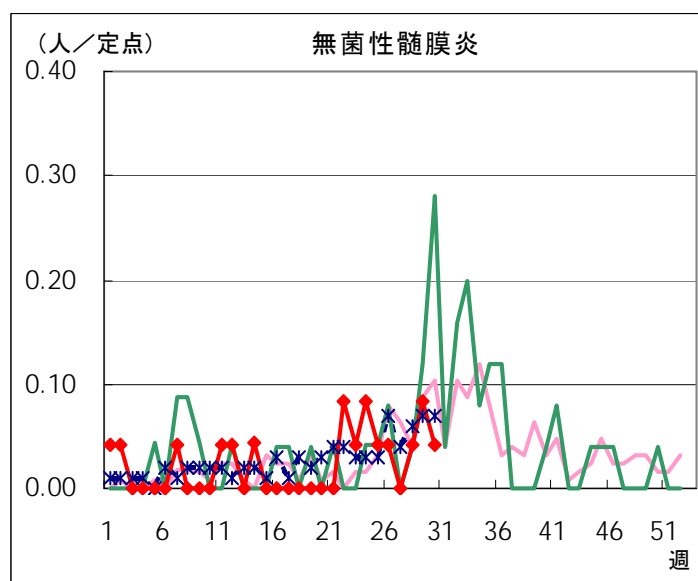
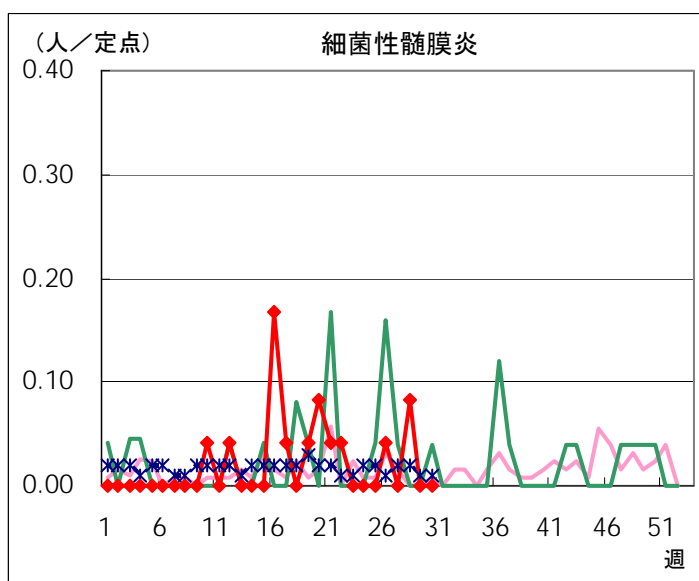
◆ インフルエンザ定点

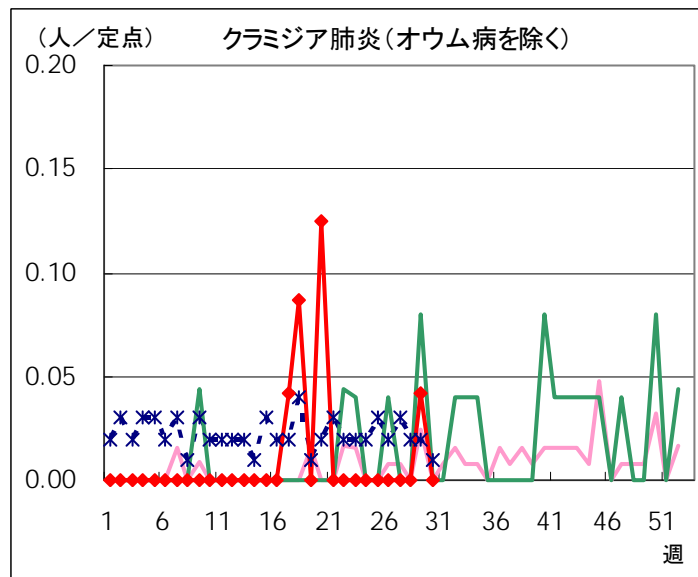
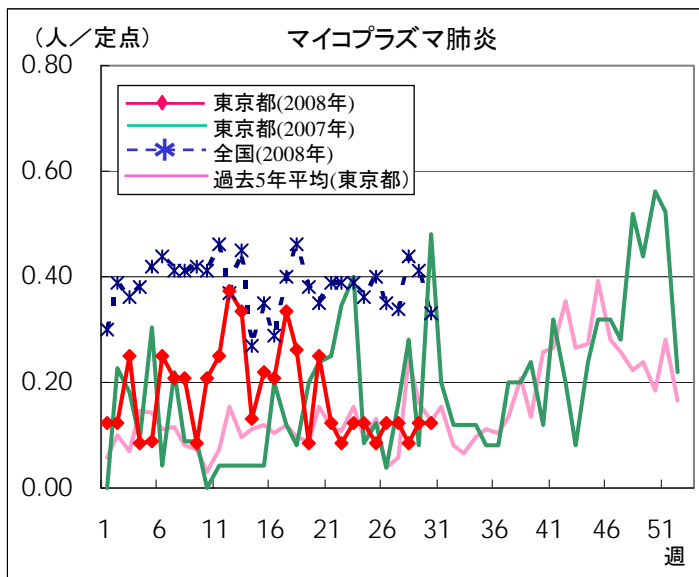


◆ 眼科定点

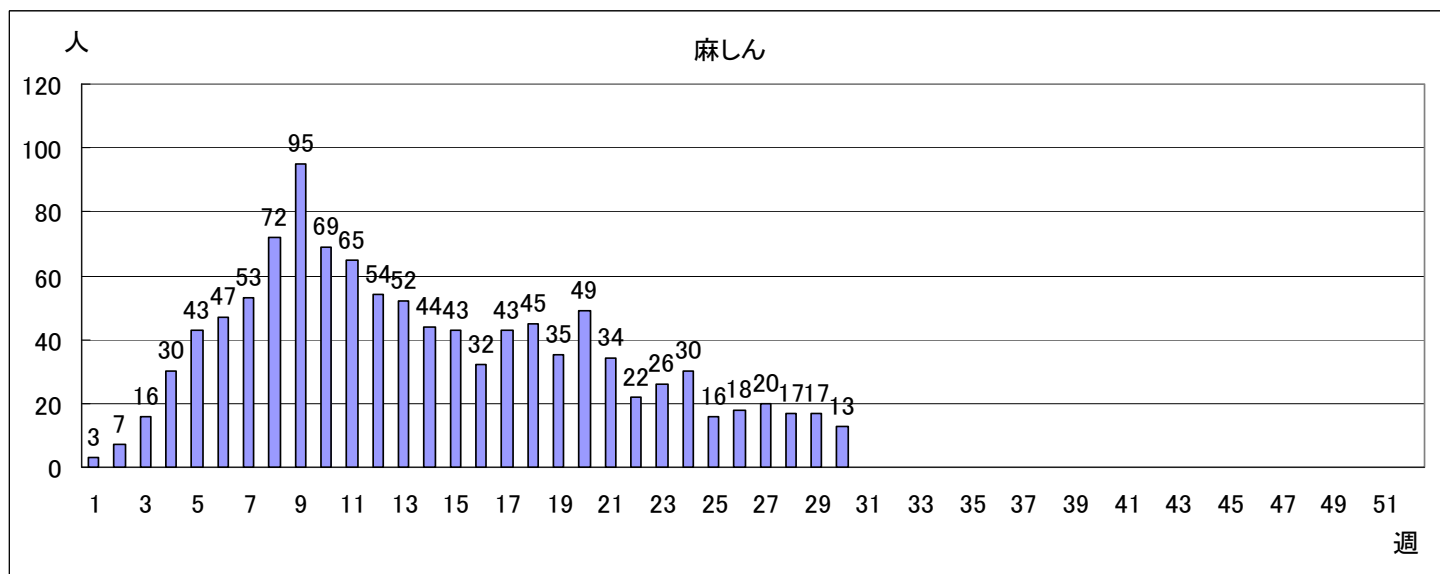


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2008年30週現在



病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
6/26	溶連菌感染症	5	咽頭(菌株)	A群溶血性レンサ球菌 T型別不能	血清型
7/4	百日咳、手足口病	11M	咽頭拭い液	MSSAコアグラエゼ [®] Ⅶ型	分離同定
7/4	溶連菌感染症	5	咽頭(菌株)	A群溶血性レンサ球菌 T-12型	血清型
7/7	百日咳、腸炎	11M	咽頭拭い液	MSSA コアグラエゼ [®] 型別不能	分離同定
7/7	急性気管支炎 百日咳疑い	2M	咽頭拭い液	MRSAコアグラエゼⅢ型 インフルエンザ菌	
7/8	敗血症疑い	1M	咽頭拭い液	エンテロウイルス サイトメガロウイルス	遺伝子
7/8	インフルエンザ	1	咽頭拭い液	アデノウイルス1型	
7/10	急性気管支炎 百日咳疑い	1M	咽頭拭い液	肺炎球菌	分離同定
7/10	不明熱	6	咽頭拭い液	エンテロウイルス	遺伝子
7/11	無菌性髄膜炎	33	髄液	単純ヘルペスウイルス2型	
7/11	川崎病	9M	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/11	咽頭炎	1	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス3型	
7/11	急性扁桃炎、中耳炎	4	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/11	髄膜炎	1M	髄液	エンテロウイルス	
7/12	ヘルペス口唇炎	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/12	発熱、ウイルス性脳炎 突発性発しん	8M	髄液	ヒトヘルペスウイルス6型	
7/12	ウイルス性発しん症	6M	咽頭拭い液	エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス6型7型 パラインフルエンザウイルス3型	
7/14	発しん症(水痘)	4	うがい液	アデノウイルス 水痘・帯状疱疹ウイルス	
7/14	ヘルパンギーナ 熱性けいれん	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス	

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
7/14	流行性耳下腺炎	3	咽頭拭い液	ムンプスウイルス、 EBウイルス	遺伝子
7/14	咽頭炎	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス パラインフルエンザ3型	
7/14	咽頭炎、結膜炎	11M	咽頭拭い液	エンテロウイルス パラインフルエンザウイルス3型	
7/14	急性咽頭炎	5	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/14	顔面神経麻痺 上気道炎	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型7型	
7/16	胎内感染症(風しん)	0	血液	パルボウイルスB19型	
7/16	水痘(膿症) 頸部リンパ節腫脹	2	咽頭拭い液	水痘・帯状疱疹ウイルス	
7/17	けいれん群発	1	髄液	ヒトヘルペスウイルス6型	
7/17	ウイルス性脳炎	1	血液	エンテロウイルス	
7/17	不明熱 急性咽頭気管支炎	10M	うがい液	エンテロウイルス	
7/17	急性咽頭炎	3	咽頭拭い液	エンテロウイルス パラインフルエンザウイルス3型	
7/17	百日咳疑い	8	咽頭拭い液	エンテロウイルス パラインフルエンザウイルス3型	
7/17	咽頭結膜熱	1	咽頭拭い液	アデノウイルス エンテロウイルス	
7/17	扁桃炎、けいれん重積	5	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
7/18	不明発しん症	1	咽頭拭い液	アデノウイルス エンテロウイルス	
7/19	アデノウイルス感染症	10M	咽頭拭い液	アデノウイルス エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス6型	

◇積極的疫学調査等による搬入検体

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
7/11	百日咳疑い	14	咽頭拭い液	百日咳菌	遺伝子
7/11	百日咳疑い	12	咽頭拭い液	百日咳菌	

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2008年							
		22	23	24	25	26	27	28	29
ウイルス	アデノウイルス	14	5	11	7	6	17	12	5
	ライノウイルス	6	4	6	4	9		8	
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス						1		
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	5	3	8	5	14		14	18
	単純ヘルペスウイルス	4			3			1	1
	水痘・帯状疱疹ウイルス								2
	ヘルペスウイルス6/7	3	2	4	5	6		8	6
	EBウイルス	2		1	4	5		2	1
	サイトメガロウイルス		2	1	4	2			1
	ムンプスウイルス			4	1	2			1
	麻疹ウイルス		1	1	1				
	風疹ウイルス				1				
	パルボウイルスB19	1	2						1
	RSウイルス								
	ノロウイルス			1	1				
	ロタウイルス								
インフルエンザウイルスAH1									
インフルエンザウイルスAH3			5						
インフルエンザウイルスB			1						
デングウイルス									
その他のウイルス		4	10	6	7		4	6	
細菌	カンピロバクター		1	1				2	
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌	1	1				1		
	溶血性レンサ球菌	5	2	1	5		8	1	2
	その他の細菌	7	6	5	1	1	8	3	7
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2008年22週～29週

臨床診断名 検出病原体	インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 連 菌 咽 頭 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	ヘ ル パ ン ギ ー ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	不 明 発 し ん 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	水 痘	麻 し ん	風 し ん	そ の 他	
搬入検体数	30	122	80	43	68	9	7	11	16	5	1	37	12	2	3	3	186	
ウイルス	アデノウイルス	7	18	12	6	1	1	5	3	1	1	6	2				14	
	ライノウイルス	1	3	14	2		1		1	1		3	3				8	
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群																	
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス	1																
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス		19	7	7	3	2		5	4		6	1					13
	単純ヘルペスウイルス				1	3												5
	水痘・帯状疱疹しんウイルス													2				
	ヘルペスウイルス6/7	1	3			1						1	11					17
	EBウイルス		1	1									5	5				3
	サイトメガロウイルス			2														8
	ムンプスウイルス					1								7				
	麻しんウイルス		1													2		
	風しんウイルス												1					
	パルボウイルスB19		1									1	1				1	
	RSウイルス																	
	ノロウイルス				2													
	ロタウイルス																	
	インフルエンザウイルスAH1																	
インフルエンザウイルスAH3	1	1	3															
インフルエンザウイルスB		1																
デングウイルス																		
その他のウイルス		15	17	1		1							1				2	
細菌	カンピロバクター				4													
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																3	
	溶血性レンサ球菌		12	1				11										
その他の細菌		31	5		1						1							
その他の病原体																		

感染症豆知識

バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症

バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌 (VRSA) 感染症は五類感染症の全数把握疾患で 7 日以内の届出が決められている。メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) は院内感染、術後感染、市中感染の原因菌として重要であるが、2002 年には米国で VRSA による感染症が報告された。これは多剤耐性 MRSA がバンコマイシン耐性遺伝子の一つである *vanA* を獲得したもので、現在までの報告は極めて少ないが今後の動向には注意が必要である。VRSA は前述のように *vanA* 遺伝子を持ち、バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) が多くの患者から分離されている医療環境では、VRE より *vanA* 遺伝子を獲得することで VRSA が出現する危険性がある。病原性や感染経路は MRSA と同等と考えられ、接触感染(感染源は保菌者、感染患者)による発症の可能性が高い。

臨床症状は黄色ブドウ球菌(含む MRSA)による感染症と同様に創部感染、皮膚膿瘍、骨髄炎、肺炎、腸炎、敗血症、腹膜炎などの重篤な感染症を引き起こすことがある。検査および診断として感染部位、臨床材料(血液、喀痰、便、尿など)からの菌の分離・同定とバンコマイシンに対する薬剤感受性検査を行い、検出された黄色ブドウ球菌の薬剤耐性(バンコマイシンの MIC \geq 32 μ g/ml)の確認で診断する。治療はオキサゾリジン系薬であるリネゾリド(LZD)を 1 回 600mg・1 日 2 回点滴静注する(造血機能障害に留意)。そのほか本菌が検出された場合、患者を個室管理とし、他患者への接触感染を防止することが重要である。

(文責 (財) 性の健康医学財団 理事長 松田静治)